

特別回報

外航組合員各位

2022 保険年度の国際 P&I グループ再保険プログラムについて

2022 保険年度の国際 P&I グループ (IG) 再保険プログラムが決定しましたのでご案内申し上げます。

1. 再保険スキーム

2022 保険年度の IG 再保険プログラムのスキームは以下のとおりです (2021 保険年度から変更はありません)。

- クラブ保有額 : 1 千万米ドル
- グループ保有額 : 1 億米ドル
- General Excess Loss (GXL) Cover : 20 億米ドル (1 億米ドルを超える 20 億米ドル部分)
- Collective Overspill Cover : 10 億米ドル (21 億米ドルを超える 10 億米ドル部分)

2. てん補限度額

以下の損害に対する 2022 保険年度のてん補限度額は以下のとおりです (2021 保険年度から変更はありません)。

- 油濁損害 : 10 億米ドル
- 船客の単体損害 : 20 億米ドル
- 船客と船員との複合損害 : 30 億米ドル

3. 悪意のあるサイバー攻撃、新型コロナウイルス、その他新型の感染症起因する損害

2020 年に GXL (超過額再保険) プログラムの 2 年契約がスタートして以降、再保険者は悪意のあるサイバー攻撃、新型コロナウイルス、その他新型の感染症に関し、再保険市場全体としててん補の制限を設けました。しかしながら、交渉の結果、IG は以下のとおり高レベルのてん補を確保しました。

- Layer 1 (1 億米ドルを超える 4.5 億米ドル部分) : てん補制限なし
- Layer 2~4 (5.5 億米ドルを超える 15.5 億米ドル部分) : 上述の 3 つのリスクに関し、Layer 2~4 全体で年間の累積回収限度額 (合計 21.5 億米ドル) を設定

IG では、年間の累積回収限度額を超える損害について、IG のプール機構でカバーすることに合意しました。したがって、組合員の皆様へ提供されるカバー自体に変更はありません。

スキームの詳細については、添付の表をご参照ください。

4. 船種別 IG 再保険料率

IG における検討の結果、現在の 5 つの船種カテゴリを変更する必要はないものの、過去のクレーム実績を考慮して再保険料率を調整すべきであるとの結論に達しました。

2022 保険年度の船種別 IG 再保険料率は以下のとおりとなります。

船種カテゴリ	2022 保険年度 再保険料率 (US\$/GT)	対前年比増減率 (%)
Persistent Oil Tankers	0.6469	+15.0
Clean Tankers	0.3666	+40.0
Dry Cargo Vessels	0.5639	+40.0
Fully Cellular Containerships	0.6586	+55.0
Passenger Vessels	3.8677	+18.6

※Excess War 再保険および MLC 再保険に対する再保険料を含みます。

5. 更改経緯

再保険プログラムの大部分について 2 年契約を締結するという 2020 年保険年度の決断により、IG はこの 2 年間、組合員の皆様へ安定した再保険料で継続的な保険カバーを提供することができました。しかしながら、その間に再保険市場環境の悪化、世界的な感染症の流行、カバー範囲の見直し、クレーム成績の悪化などが重なったため、2022 年の更改は特に交渉が難航することとなりました。

バミューダ拠点の IG の自家保険会社である Hydra が、引き続き再保険スキームの下位 Layer を保有することにより、IG を支えています。また Private Placement (商業保険者が引き受ける定額の再保険) を活用するという IG の戦略により、新型コロナウイルス感染症の世界的流行やプールクレームの増加、再保険市場がカバーを提供する範囲の見直し等の影響により再保険市場が不安定な年であっても、組合員の皆様にご負担いただく再保険料への影響を軽減しています。

なお、IG 再保険料率は前年比平均 33%の増加となりましたが、2022 保険年度の料率は 2014 保険年度の料率とほぼ同じです。

詳細につきましては、IG による[プレスリリース](#)をご覧ください。

以上

添付資料：2022 保険年度 IG 再保険プログラム

IG再保険プログラム（2022保険年度）

＜その他P&Iクレーム＞								約89億4千万米ドル			
Pool (Overspill) (約56億5千万米ドル)								31億米ドル	4		
Collective Overspill Layer (10億米ドル) Excess of underlying				＜船客+船員クレーム＞				30億米ドル			
								21億米ドル			
4th Layer **** (6億米ドル) Excess of underlying				＜船客クレーム＞				20億米ドル			
								15億米ドル			
3rd Layer **** (7.5億米ドル) Excess of underlying				＜油濁クレーム＞				10億米ドル	3		
								3rd Layer **** (2.5億米ドル) Excess of underlying			
*** 10% share	** 10% share	* 10% share	2nd Layer **** (2億米ドル) 70% share		*** 10% share	** 10% share	* 10% share	2nd Layer **** (2億米ドル) 70% share		5.5億米ドル	
		1st Layer (4.5億米ドル) 70% share with annual aggregate deductible of \$100m being covered by Hydra				1st Layer (4.5億米ドル) 70% share with annual aggregate deductible of \$100m being covered by Hydra				1億米ドル	
7.5% クレーム提起 クラブ保有			Upper Pool (5千万米ドル-1億米ドル covered Hydra)							5千万米ドル	2
Lower Pool (3千万米ドル-5千万米ドル covered Hydra)								3千万米ドル			
Lower Pool (1千万米ドル-3千万米ドル)								1千万米ドル			
クラブ保有								0	1		

- 1千万米ドルまで
クラブ保有額と称し、各クラブの自己負担。
- 1千万米ドルから1億米ドルまで
プールと称し、IG加盟13クラブが各々の分担率に基づき分担。
なお、プール部分のうち3千万米ドルから1億米ドルまではHydraへ出再。
- 1億米ドルから21億米ドルまで
Lloyd'sを中心とする再保険マーケットで再保険を購入。
(*、**および***は、Private Placementと呼ばれる複数年契約定期再保険)
1st Layerから4th Layerに分かれており、各Layerごとに参加している再保険会社異なる。
1st Layer: 1億米ドルから5.5億米ドルまで。
2nd Layer: 5.5億米ドルから7.5億米ドルまで。
3rd Layer: 7.5億米ドルから15億米ドルまで。
4th Layer: 15億米ドルから21億米ドルまで。
なお、1st Layerのうち、70%はマーケット再保険者に出再、同再保険カバーには1億米ドルの免責金額が設定されている。同免責額まではHydraがカバーする。

*** 悪意のあるサイバー攻撃、新型コロナウイルス、その他新型の感染症に起因する損害については、合計21.5億米ドルの年間累積回収限度額が設定されている。
2nd Layer: 年間累積回収限度額: 合計8億米ドル (油濁クレームとその他P&Iクレームに対し、それぞれ年間4億米ドルの限度額あり)
3rd Layer: 年間累積回収限度額: 7.5億米ドル (油濁クレームは1事故あたり最大2.5億米ドル)
4th Layer: 年間累積回収限度額: 6億米ドル
- 21億米ドルから約89億4千万米ドルまで
オーバースpillと称し、IG全クラブメンバーで分担し、その資金は各クラブがメンバーに請求する分担金(オーバースpill保険料)により賄う。
なお、オーバースpillのうち、21億米ドルから31億米ドルの部分についてはマーケットで再保険を購入しており、この部分については同再保険で賄われる。

なお、油濁損害については10億米ドル、船客にかかわる責任は20億米ドル、船客と船員にかかわる責任は30億米ドルの上限が設定されている。